

令和7年度第1回宮代町立小・中学校一貫教育推進委員会 会議録

1 日時・場所

令和7年6月12日（木）10:00～11:30

役場庁舎202会議室

2 出席者

審議会委員：15名出席

上田悟委員長、木村由美子副委員長、齊藤嘉保委員、金野泰久委員、竹内知子委員、高野桂子委員（代理 萩原信和様）、山口隆夫委員、谷義明委員、栗原利夫委員

（代理 渡邊良文様）、石崎徳幸委員、竹田奈々重委員、谷口昌之委員、蛭間芳樹委員、小澤香保里委員、内田崇史委員

事務局：島村圭一教育長 加藤裕一学校管理幹兼副課長

3 開会

4 任命書交付

5 挨拶

教育長から挨拶

6 自己紹介

7 委員長挨拶

上田悟委員長から挨拶

8 議事

(1) 小・中一貫教育の推進について（事務局）

資料のとおり

(2) 各小・中学校における小・中一貫教育の取組について

①須賀中学校区（須賀中学校、須賀小学校）

②百間中学校区（百間中学校、東小学校、笠原小学校）

③前原中学校区（前原中学校、百間小学校）

資料のとおり

(3) 協議

上田委員長：須賀小・須賀中の S プランについて質問、ご意見ありませんか。

蛭間委員：こんなにやっていただいていることに、保護者として感謝申し上げます。先ほどタブレットの話の中で、課題があるということでしたが、それは先生方のスキルの問題なのでしょうか、生徒側の慣れなのでしょうか。

金野委員：本校はデジタル教科書の研究を進めています。基本的にはノートとタブレットを使って同時に授業を進めています。授業で使っているタブレットを家庭に持ち帰って、家庭でどのように取り扱うか。家庭の中でのタブレットの使い方に、学校はどこまで指導していくのかというのが課題となっています。

蛭間委員：須賀小が精力的にやっていることについては、この会議とは別の場で町内の学校には共有されているのですか。

金野校長：はい。他の会議等でも町内の各学校と共有しています。

上田委員長：私も須賀小学校の授業を見ましたが、今まで経験したことがない授業になっていました。自主性・主体性が大事になると実感しました。

木村副委員長：紙の教科書は使っているのですか。

加藤：紙の教科書も使っています。教科書は無償ですが、デジタル教科書は有償のため、全ての学校に入れることはできていません。

島村教育長：法律で紙の教科書を使わなくてはいけないと決まっています。紙の教科書は無償ですが、紙以外のものは有償になっています。

木村副委員長：須賀小以外の学校でデジタル教科書はどの程度使っているのでしょうか。

萩原委員代理：東小学校では算数と英語を積極的に使っています。

山口委員：笠原小学校では、デジタル教科書以外にも、教科書に書いてある QR コードを読み込んだり、デジタルドリルやデジタルテストを活用したりしています。また、考えをタブレットで共有しています。タブレットを活用することで、今まで発表が苦手だった子が発表することが可能となり、デジタルを通してアナログのコミュニケーション能力の育成という効果もあるということを感じています。

上田委員長：笠原小学校はオンラインでの授業でも最先端の取り組みをしています。

谷口委員：いろいろな取り組みをしていただいていることは本当にありがたいと思っています。須賀小・須賀小の新しい取り組みの校長先生同士のインタビューというのがとても面白いと思いました。デジタル教科書という言葉は初めて聞きました。また、相互の授業の参観の話がありましたが、小中一貫教育の推進の中での取り組み以外にも、他の先生の授業を見る機会がもっとあるといいと思います。小中一貫教育の推進については、非常に素晴らしい取り組みだと思いますが、もっと保護者の皆様に浸透してほしいと思います。また、竹内先生のお話にもあったとおりで、効果や成果がわかるといいと思います。

上田委員長：先生方が、お互いに教室の出入りが多ければ多いほど、子供たちには仲がいい、協力しあっているという印象を与えるそうです。

小澤委員：本日、はじめてこの委員会に参加させていただいて、小中学校で一貫して教育が

進められていることに感謝申し上げます。また、特別支援学級の交流も素晴らしいと思います。須賀中学校には陸上部がないので小学校での陸上指導はできませんが、他の学校の交流を聞いて、素晴らしいと思いました。須賀中学校の子供たちは仲がいいという印象です。また、保護者にも挨拶をしてくれます。とても素直に育っていると思います。これも小中一貫として先生方がやってくださっているおかげと感じています。

上田委員長：今、特別支援学級の交流の話がありました。児童生徒数がどんどん増えていきます。対応が難しいと感じると同時に、交流が必要だなと改めて感じました。

竹田委員：今回はじめてこういう話を聞きました。いろいろやっていただいているということがわかりました。すごくありがたいという気持ちです。須賀小学校は建て替えにともない、公民館の機能を兼ねるとい話を聞いています。小学校と中学校の交流とあわせて、地域の方との交流ができるのもいいと思います。他の学校でも、地域を含めた交流ができるいいと思いました。また、須賀学区は、小学校から中学校にそのままあがるということで、中1ギャップはあるのかと思っています。

上田委員長：複合化についてお伝えすることはありますか。

金野委員：現在、細かいところを詰めています。2年間、設計に携わることができて、本当に光栄に思います。

上田委員長：令和10年4月1日開校です。私も含め地域の人が多くが楽しみにしているということです。

齊藤委員：はじめて参加しましたが、各校の取り組みがよくわかりました。私が10年ほど宮代町で務めていたときからやっておりましたが、徐々に進んでいって、ここまで進められたということを感じました。各学校に質問ですが、どれくらいの専科制が進んでいるかを教えてください。また、授業時間の関係で難しいと思いますが、小学校のクラブ活動に中学校の生徒が参加できるということも楽しいかなと思いました。

萩原委員代理：東小学校には理科専科と英語専科がいます。より専門的な授業とともに効率の良さを感じています。

竹内委員：理科専科というのは学校で勝手に決められるものではなく、県からの加配でいただいているものになります。宮代町では3校いただいています。理科、算数、体育から選んでよいのですが、どこの学校も理科が実験等があつて大変ということで理科を選んでいきます。

山口委員：専科の先生については、笠原小学校では、理科、英語、家庭科、音楽でやっています。高学年委においては社会、体育、図工で導入しています。中学校でのギャップを解消するために取り組んでいます。先生が自分の学級の子供だけではなく、学級を超えた広い視野で子供を見るようになったという効果も見られました。

木村副委員長：小中学校でいろいろな行事をやっていただいたことで、子供が大きく成長しました。今、すぐには見えないかもしれませんが、今後、いろいろな行事で子供たちが成長すると思います。先ほど、須賀小からデジタル教科書についての取り組みを聞かせていただきました。子供が自分たちでルールを決める、つくるというのはすごい取り組みだなと思っ

ています。大人が押し付けるのではなく、自分たちでルールを決めることで、自分たちが主体的に守っていかなければならないという意識づけができるので、より守りやすくなると思われました。今、日進月歩でデジタルの技術が進んできています。子供だけではなく、教員・保護者も活用の仕方を学んでいかないと加害者にも被害者にもなってしまいます。先進的な取り組みをした学校の事例をどんどん広め、町全体でその力を高めていけたらいいと思います。

上田委員長：年々、新しいもの、新しい取り組みがあります。各プランの中で、今年度の計画がありますが、保護者にはどう示しているのでしょうか。一番は学校だよりだと思います。7校の学校だよりを全部見せていただきましたが、年々、読者にわかりやすく丁寧になっています。引き続き、開かれた学校づくりに向けての取り組みをお願いします。また、どの学校も相互授業参観に取り組んでいただいています。今年は100%近い人が参観しているということを聞いております。引き続き、各校でのお取り組みをお願いします。今後を楽しみにしています。

9 その他

事務連絡

10 閉会